

4. 子育て上の気がかり

1. 子育ての気がかり (図4-14)

複数回答で子育てを中心にした気がかり・しつけ・教育についての悩みをたずねた。

第1位は「母語の教育や文化を学ばせること」38.0%、2位「少食や食べ物の好き嫌いがある」30.4%、3位「病気やけが」28.4%、4位「友だちと仲良く遊べること」25.6%、「子どものほめ方、叱り方」25.6%であった。以下「遊んだ後の片づけ」23.8%、「決まった時間に起きたり寝たりする」20.5%、「まわりへのあいさつ」20.5%、「教育費等」19.0%、「言葉の発達が遅れている」16.4%であった。

2. 年齢別・性別子育ての気がかり

(表4-1、4-2)

どの年齢においても「母語の教育・文化を学ばせること」は1・2位を占めていた。「病気やけが」は、年齢が低いほど上位となっていた。

0歳児では、1位「病気やけが」、3位「予防接種・健康診断」、5位「アレルギー」であった。

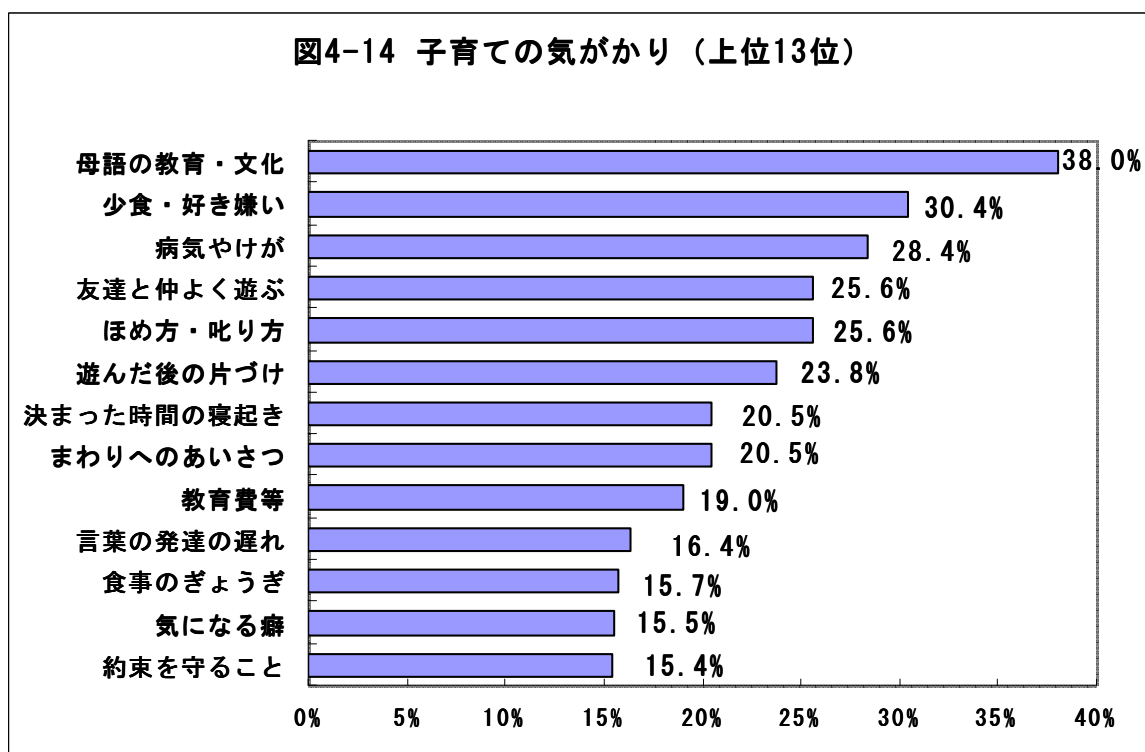
0歳児の特徴は「予防接種・健康診断」「アレルギー」が上位であったことである。

1歳児では、3位に「少食・食べ物の好き嫌い」、5位に「言葉の発達の遅れ」があがっていた。この年齢以降、「少食・食べ物の好き嫌い」は保護者の気がかりの上位を占めていた。

2歳児では、1位に「母語の教育・文化」、5位に「友達と仲良く遊ぶ」、6位に「排泄とその後始末」があがっていた。3歳児では、「少食・食べ物の好き嫌い」が1位であった。4・5・6歳児では「母語の教育・文化」が1位となっていた。5歳児では2位に「遊んだ後のかたづけ」が、6歳児では2位に「決まった時間に寝たり起きたりすること」があがっていた。

全体では「遊んだ後の片づけ」「気になる癖」は女子に、「言葉の発達の遅れ」は男子に多かった。0歳児では「病気やけが」「予防接種・健康診断」、1歳児では「友達と仲良く遊ぶ」「教育費など」は男子に多くみられた。2歳を過ぎると「遊んだ後の片づけ」に、また6歳児では「まわりへのあいさつ」が女子に多かった。

図4-14 子育ての気がかり (上位13位)



N=2002

表 4-1 子育ての気がかり上位10位 (年齢・性別)

順位	0歳児 (60人)		1歳児 (189人)		2歳児 (299人)		3歳児 (396人)	
	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子
1	病気・けが 男子 48.3 女子 29.0		病気・けが 32.6 37.2		母語の教育・文化 41.2 41.9		少食・好き嫌い 35.7 40.4	
2	母語の教育・文化 男子 31.0 女子 35.5		母語の教育・文化 33.7 27.7		病気・けが 36.5 30.2		母語の教育・文化 36.6 37.7	
3	予防接種・健康診断 男子 34.5 女子 12.9		少食・好き嫌い 25.3 29.8		少食・好き嫌い 29.4 32.6		病気・けが 32.9 30.1	
4	ほめ方・叱り方 男子 31.0 女子 12.9		ほめ方・叱り方 26.3 26.6		ほめ方・叱り方 27.6 27.1		ほめ方・叱り方 28.6 25.7	
5	アレルギー 男子 17.2 女子 16.1		言葉の発達の遅れ 23.2 26.6		友達と仲良く遊ぶ 28.2 24.8		友達と仲良く遊ぶ 28.6 25.1	
6	友達と仲良く遊ぶ 男子 24.1 女子 9.7		友達と仲良く遊ぶ 27.4 19.1		排泄と後始末 20.0 22.5		遊んだ後の片づけ 26.3 27.9	
7	定時刻の寝起き 男子 24.1 女子 9.7		教育費等 27.4 17.0		教育費等 21.2 18.6		まわりへのあいさつ 24.9 24.0	
8	教育費等 男子 17.2 女子 12.9		排泄と後始末 18.9 18.1		遊んだ後の片づけ 15.3 24.0		定時刻の寝起き 18.8 24.0	
9	食事のぎょうぎ 男子 20.7 女子 6.5		遊んだ後の片づけ 14.7 18.1		定時刻の寝起き 17.6 20.9		教育費等 20.2 21.9	
10	気になる癖 男子 10.3 女子 16.1		食事のぎょうぎ 11.6 17.0		まわりへのあいさつ 17.6 18.6		食事のぎょうぎ 17.8 13.7	

(%)

表 4-2 子育ての気がかり上位10位 (年齢・性別)

順位	4歳児 (403人)		5歳児 (471人)		6歳児 (157人)		全体 (1997人)	
	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子
1	母語の教育・文化 男子 39.3 女子 41.1		母語の教育・文化 35.3 38.9		母語の教育・文化 46.7 37.8		母語の教育・文化 38.0 38.2	
2	少食・好き嫌い 男子 31.8 女子 32.8		遊んだ後の片づけ 27.8 30.6		定時刻の寝起き 22.7 32.9		少食・好き嫌い 29.5 31.79	
3	病気・けが 男子 21.3 女子 35.9		少食・好き嫌い 26.7 29.6		友達と仲良く遊ぶ 29.3 24.4		病気・けが 28.0 29.1	
4	ほめ方・叱り方 男子 25.1 女子 28.6		友達と仲良く遊ぶ 29.8 23.1		少食・好き嫌い 28.0 24.4		友達と仲良く遊ぶ 28.2 22.9	
5	友達と仲良く遊ぶ 男子 26.1 女子 23.4		病気・けが 23.5 23.1		ほめ方・叱り方 24.0 26.8		ほめ方・叱り方 26.0 25.3	
6	遊んだ後の片づけ 男子 21.8 女子 28.1		ほめ方・叱り方 23.1 22.7		遊んだ後の片づけ 21.3 26.8		遊んだ後の片づけ 21.9 26.1	
7	まわりへのあいさつ 男子 22.3 女子 25.0		定時刻の寝起き 21.6 22.2		まわりへのあいさつ 17.3 25.6		定時刻の寝起き 19.0 22.4	
8	定時刻の寝起き 男子 19.0 女子 23.4		まわりへのあいさつ 20.8 20.4		言葉の発達の遅れ 20.0 19.5		まわりへのあいさつ 20.3 20.8	
9	気になる癖 男子 12.8 女子 22.9		教育費等 20.4 16.2		教育費等 18.7 20.7		教育費等 19.3 18.7	
10	食事のぎょうぎ 男子 15.6 女子 15.6		食事のぎょうぎ 18.0 16.7		約束を守る 21.3 17.1		言葉の発達の遅れ 18.3 14.4	

(%)

N=1997

3. 滞在年数による差 (図 4-15)

滞在年数0～3年未満、3～10年未満、10年～20年未満、20年以上で気がかりな項目をみた。気がかりの中で滞在年数が短い保護者ほど率が高かったのは、「友達と仲良く遊ぶ」「予防接種・健康診断」「言葉の遅れ」であり、滞在年数が長いほど高かったのは「ほめ方・叱り方」であった。

「病気やけが」は滞在年数10年未満に、「母語の教育・文化」「少食・食べ物の好き嫌い」は、滞在年数3年から20年の保護者の割合が多かった。

滞在年数3年未満の保護者の気がかりを1年ずつに分けて集計した。「母語の教育・文化」を気がかりとした保護者は、1年未満24.4%、1～2年未満32.1%、2～3年未満45.3%と次第に気がかりとする割合が増えていた。この傾向は「少食・好き嫌い」「予防接種」「言葉の遅れ」にもみられた。

「友達と遊ぶ」は、1年未満51.2%と多く、1～2年未満32.1%、2～3年未満22.1%と減少していた。「病気とけが」については、大きな変化はみられなかった。

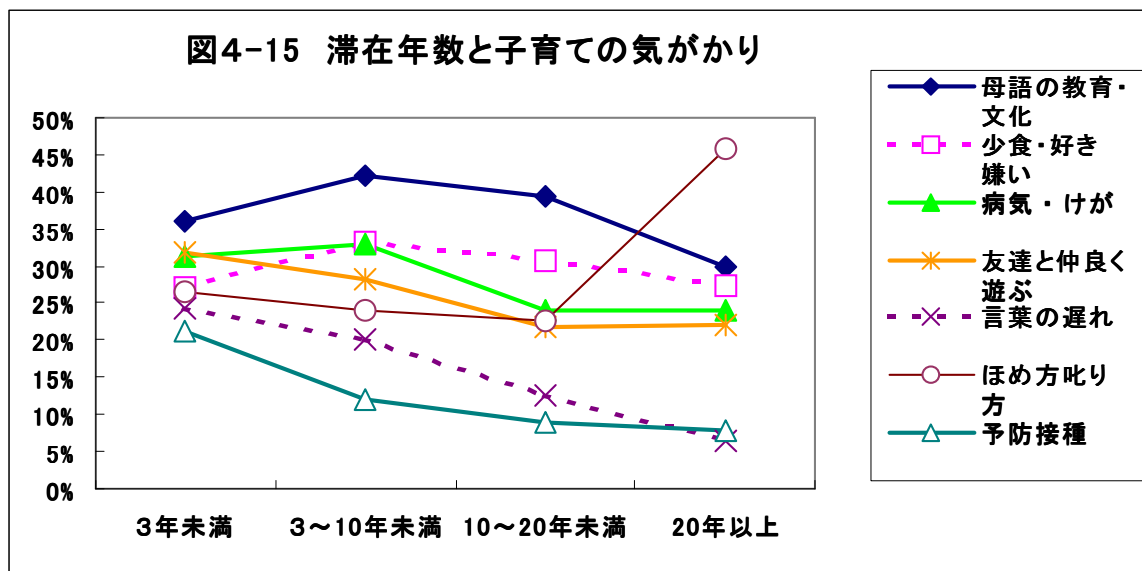
4. 国籍・地域別気がかり (表 4-3、4-4)

国籍・地域によって人数・子どもの年齢に差があったが、傾向を知るために国籍・地域別に気がかりをみてみた。(調査対象者の国籍・地域については、p2を参照。)気がかりとした項目の順位に違いがみられたのは、「母語の教育・文化」「遊んだ後のかたづけ」「少食・食べ物の好き嫌い」「予防接種・健康診断」「ほめ方・叱り方」などであった。

「母語の教育・文化」を1位にあげた国は、日本・中国・韓国・ブラジル・アメリカであった。「遊んだ後の片づけ」は台湾で1位であった。

「少食・好き嫌い」は、タイ・フィリピン・ベトナムで1位であった。「約束を守る」はペルーで1位であり、ブラジルで3位であった。「予防接種」はブラジルで2位であった。また「ほめ方・叱り方」は朝鮮が1位で、日本・台湾・朝鮮・ブラジルでも上位であった。

その国のシステムや文化の違いから生じているものもあるので、それぞれの国の文化背景を知る必要があると思われた。



N=1884

表4-3 子育ての気がかり（国別上位10位）

順位	日本 (295人)	中国 (571人)	台湾 (65人)	韓国 (316人)	朝鮮 (40人)	タイ (50人)
1	母語教育・文化 44.5	母語教育・文化 57.3	遊び後の片づけ 44.8	母語教育・文化 38.7	ほめ方・叱り方 45.7	少食・好き嫌い 36.2
2	少食・好き嫌い 35.3	病気やけが 41.6	母語教育・文化 41.4	ほめ方・叱り方 38.0	病気やけが 37.1	病気やけが 34.0
3	ほめ方・叱り方 34.6	少食・好き嫌い 37.3	ほめ方・叱り方 41.4	遊び後の片づけ 31.0	母語教育・文化 31.4	言葉の遅れ 34.0
4	病気やけが 32.0	友達と遊ぶ 34.6	少食・好き嫌い 37.9	友達と遊ぶ 30.3	教育費 31.4	ほめ方・叱り方 29.8
5	遊び後の片づけ 30.5	まわりへの挨拶 26.0	病気やけが 34.5	定時刻の寝起き 27.3	遊び後の片づけ 28.6	母語教育・文化 27.7
6	友達と遊ぶ 28.7	遊び後の片づけ 25.7	まわりへの挨拶 29.3	少食・好き嫌い 26.7	食事の行儀 25.7	約束を守る 27.7
7	まわりへの挨拶 23.9	ほめ方・叱り方 24.3	友達と遊ぶ 25.9	まわりへの挨拶 24.3	友達と遊ぶ 22.9	食事の行儀 25.5
8	食事の行儀 23.5	言葉の遅れ 24.0	定時刻の寝起き 24.1	病気やけが 22.3	約束を守る 20.0	教育費 25.5
9	気になる癖 22.8	食事の行儀 22.3	食事の行儀 22.4	教育費 19.3	アレルギー 17.1	アレルギー 23.4
10	教育費 22.1	教育費 21.0	約束を守る 17.2	アレルギー 17.7	定時刻の寝起き 14.3	予防接種 23.4

表4-4 子育ての気がかり（国別上位10位）

順位	フィリピン (205人)	ベトナム (40人)	ブラジル (65人)	ペルー (41人)	アメリカ (31人)	その他 (191人)
1	少食・好き嫌い 33.0	少食・好き嫌い 37.8	母語教育・文化 51.7	約束を守る 33.3	母語教育・文化 62.1	少食・好き嫌い 42.0
2	定時刻の寝起き 28.6	母語教育・文化 35.1	予防接種 41.7	母語教育・文化 30.8	教育費 31.0	母語教育・文化 36.1
3	病気やけが 24.2	食事の行儀 35.1	約束を守る 35.0	少食・好き嫌い 30.8	病気やけが 27.6	病気やけが 29.6
4	教育費 20.3	言葉の遅れ 27.0	ほめ方・叱り方 35.0	言葉の遅れ 30.8	定時刻の寝起き 27.6	遊び後の片づけ 26.0
5	友達と遊ぶ 19.2	病気やけが 21.6	友達と遊ぶ 31.7	食事の行儀 25.6	食事の行儀 24.1	教育費 23.7
6	ほめ方・叱り方 18.7	まわりへの挨拶 21.6	少食・好き嫌い 23.3	ほめ方・叱り方 25.6	友達と遊ぶ 20.7	ほめ方・叱り方 22.5
7	遊び後の片づけ 17.6	遊び後の片づけ 21.6	病気やけが 23.3	友達と遊ぶ 23.1	少食・好き嫌い 20.7	食事の行儀 21.9
8	アレルギー 17.0	友達と遊ぶ 18.9	教育費 18.3	病気やけが 20.5	言葉の遅れ 20.7	定時刻の寝起き 20.1
9	気になる癖 17.0	約束を守る 16.2	定時刻の寝起き 18.3	予防接種 20.5	ほめ方・叱り方 20.7	友達と遊ぶ 19.5
10	人間関係 15.4	予防接種 16.2	アレルギー 16.7	定時刻の寝起き 17.9	遊び後の片づけ 17.2	気になる癖 19.5

()内は人数 N=1910

5. 子育ての気付き：日本の母親との比較 (表 4-5、4-6)

日本の母親を対象にした山岡 (2000 年) の調査と母親の気付きを比較した(関連資料 p 110 参照)。質問項目数・選択方法に違いはあるが、「少食・好き嫌い」「友達と仲良く遊ぶ」「遊んだ後の片づけ」「決まった時間の寝起き」「挨拶をすること」「約束を守ること」など共通項目について、年齢別にまとめた。

1 歳児・2 歳児の「少食・好き嫌い」を除くと、すべての項目において、日本の母親が気付きとした率が高かった。

この差は、日本で暮らす外国籍の母親・日本語を母語としない母親たちが、母語の問題などこの項目以外に対応すべきことが多くあるためと考えられる。

6. 子育ての気付きでの「その他」の内容

その他の欄に記述された内容を、一部紹介したい。子どもの癖、アレルギーについての具体的な記述は多かったが、ここでは除いた。

経済的問題

「外国人であるため日本人との賃金差があり経済的に苦しい。」(保 5 女・父 34 歳・イラン・5 年)

「医療保険がないので痛くても薬局へ行くようになる。」(保 2 男・母 32 歳・韓国・3 年)

住宅問題など

「住宅地が狭いので、思い切り遊ぶ空間が少ない。」(保 3 女・母 34 歳・韓国・6 年)

「保育園に行く道が危ない。自転車で通園するのに道がないところがある。」(保 4 男・母 32 歳・韓国・0 年)

育児の方針

「自分の宗教 (イスラム教) について、お祈りや食習慣の違いについてどう伝えていけばいいのか。」(保 1 女・母 26 歳・バングラデッシュ・6 年)

「子どもがすぐにものを欲しがることと、みんなと同じことしないと不安になること。子どもにものを大切にする、弱いものを助ける、お年よりの方に尊敬するなどなど、人間本来のやさしさと将来どんな環境でも強く生きることを教えなければならぬと感じています。」(保 5 女・母 36 歳・中国・10 年)

「しつけや態度などで、まわりの人に対してあまりにも無関心で、ものの豊富さに執着し過ぎ、さらに慣れてしまっている日本の子どもたちが心配です。」(保 3 女・母 39 歳・ペルー・11 年)

「日本では目上の人を尊敬しないので自分の子どももそうになっています。タイに帰ったら困ります。」(保 3 女・母 32 歳・タイ・11 年)

提案

「日本の保育は他国の文化・教育のことを知らなすぎる。閉鎖的・画一的な感じがする。もう少し、柔軟な対応をしてもいいのではないだろうか。」(保 5 男・父 38 歳・モロッコ・9 年)

() は、保育園・幼稚園の別、学年、性別・回答者の続柄、年齢・国籍・滞在年数を表す。

表4-5 子育ての気がかり：日本の母親との比較（年齢・男女別）

		1歳児		2歳児		3歳児	
		男子	女子	男子	女子	男子	女子
少食・好き嫌い	母親	25.3	29.8	29.4	32.6	35.7	40.4
	日本:母親	15.2	25.0	25.0	33.3	41.5	37.7
友達と仲良く遊ぶ	母親	27.4	19.1	28.2	24.8	28.6	25.1
	日本:母親	27.3	32.1	40.0	52.8	47.5	43.7
遊んだ後の片づけ	母親	14.7	18.1	15.3	24.0	26.3	27.9
	日本:母親	21.2	32.1	22.5	50.0	48.1	44.3
決まった時間の寝起き	母親	11.6	16.0	17.6	20.9	18.8	24.0
	日本:母親	21.2	25.0	15.0	33.3	32.8	28.7
まわりへの挨拶	母親	12.6	11.7	17.6	18.6	24.9	24.0
	日本:母親	15.2	21.4	32.5	33.3	45.9	31.7
約束を守ること	母親	13.7	12.8	11.8	12.4	20.7	15.8
	日本母親	26.9	38.1	35.0	41.7	45.4	32.9

(%)

表4-6 子育ての気がかり：日本の母親との比較（年齢・男女別）

		4歳児		5歳児		6歳児	
		男子	女子	男子	女子	男子	女子
少食・好き嫌い	母親	31.8	32.8	26.7	29.6	28.0	24.4
	日本:母親	31.5	34.6	33.1	30.9	38.8	24.6
友達と仲良く遊ぶ	母親	26.1	23.4	29.8	23.1	29.3	24.4
	日本:母親	44.1	46.4	38.4	39.1	36.5	36.9
遊んだ後の片づけ	母親	21.8	28.1	27.8	30.6	21.3	26.8
	日本:母親	47.8	50.2	57.0	45.9	43.5	49.2
決まった時間の寝起き	母親	19.0	23.4	21.6	22.2	22.7	32.9
	日本:母親	29.8	34.6	31.1	30.0	32.9	23.1
まわりへの挨拶	母親	22.3	25.0	20.8	20.4	17.3	25.6
	日本:母親	39.7	39.7	42.1	45.9	41.2	46.2
約束を守ること	母親	16.6	13.5	16.5	15.3	21.3	17.1
	日本母親	40.3	36.7	38.7	33.9	40.0	26.2

(%)

* 日本母親については関連資料P111を参照

5. 子育ての一番の気がかり

1. 現在の一歩の気がかり (図4-16)

子育てを中心とした気がかり・しつけ・教育についての悩みの中で、現在最も気にかかっていることを一つだけ選択してもらい、その具体的内容を書いてもらった。

1位「母語の教育・文化を学ばせること」23.0%、2位「病氣やけが」12.5%、3位「少食や食べ物の好き嫌い」9.4%、4位「子どものほめ方・叱り方」8.0%、5位「友だちと仲良く遊ぶ」6.5%であった。以下、「言葉の発達の遅れ」6.3%、「教育費等」5.5%、「アレルギー」4.4%、「気になる癖」3.9%であった。

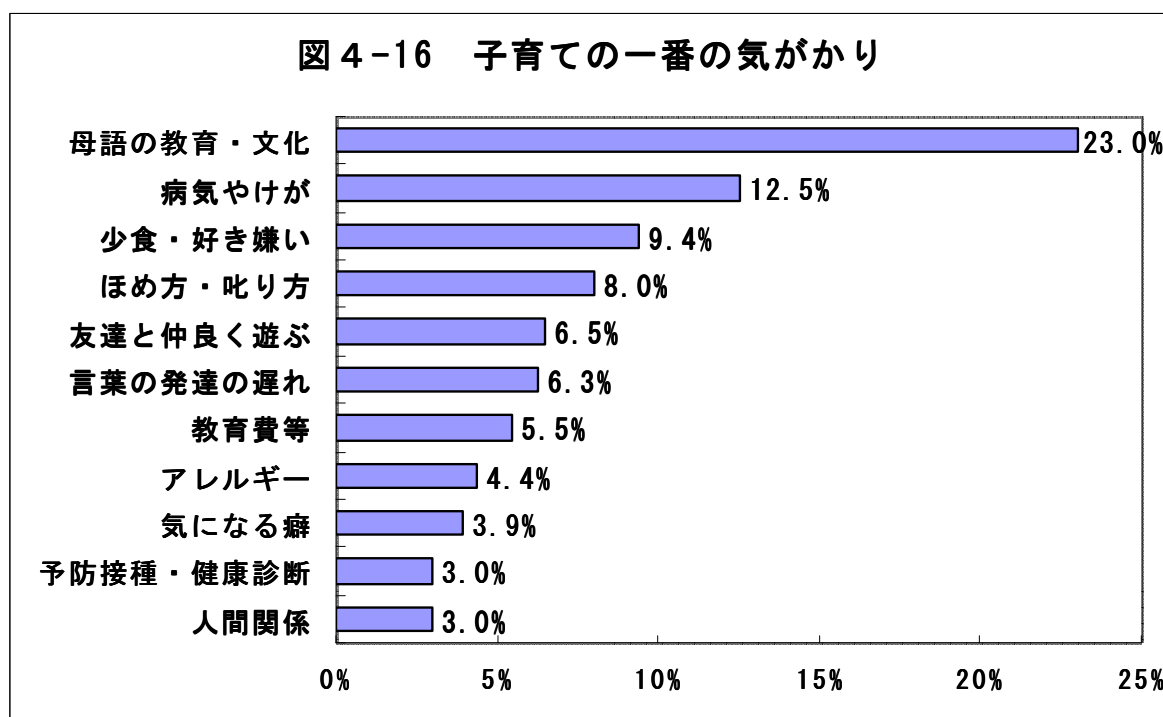
2. 年齢別の一歩の気がかり

(表4-7、4-8)

現在の一歩の気がかりは、年齢によって特徴がみられた。

「病氣やけが」が0歳・1歳では、1位であった。この「病氣やけが」はどの年齢においても3位以内にあげられており、切実な問題であることがうかがえた。

「母語の教育や文化」は、2歳で1位になり、以降各年齢で1位を占めていた。「アレルギー」については、0歳児で4位であった。「アレルギー」はその他の年齢においても10位以内にあげられており、アレルギーのある子どもへの対応に心配している保護者の姿がうかがえた。「少食・食べ物の好き嫌い」は、1歳から5歳までは上位にあげられているが、6歳になると7位に下がっていた。「友達と仲良く遊ぶ」「言葉の発達の遅れ」は6歳で上位になっていた。0歳児を除いてすべての年齢で「教育費」があがっていた。



N=1421

表4-7 子育ての一番の気がかり（年齢別）

順位	0歳児（37人）	1歳児（137人）	2歳児（214人）	3歳児（287人）
1	病気・けが 32.4	病気・けが 19.0	母語の教育・文化 24.8	母語の教育・文化 22.0
2	母語の教育・文化 18.9	言葉の遅れ 13.1	病気・けが 14.5	少食・好き嫌い 11.8
3	予防接種・健康診断 10.8	母語の教育・文化 12.4	少食・好き嫌い 9.3	病気・けが 11.5
4	アレルギー 8.1	少食・好き嫌い 10.2	ほめ方・叱り方 7.5	ほめ方・叱り方 10.8
5	友達と仲良く遊ぶ 8.1	ほめ方・叱り方 8.8	友達と仲良く遊ぶ 6.1	言葉の遅れ 5.9
6	人間関係 5.4	教育費等 6.6	排泄と後始末 5.1	教育費等 5.6
7	少食・好き嫌い 2.7	友達と仲良く遊ぶ 5.8	アレルギー 4.7	アレルギー 5.2
8	まわりへの挨拶 2.7	気になる癖 4.4	定時刻の寝起き 4.2	気になる癖 5.2
9	気になる癖 2.7	アレルギー 3.6	言葉の遅れ 4.2	友達と仲良く遊ぶ 4.9
10	定時刻の寝起き 2.7	その他 3.6	教育費等 3.7	まわりへの挨拶 3.1

(%)

表4-8 子育ての一番の気がかり（年齢別）

順位	4歳児（285人）	5歳児（335人）	6歳児（113人）	全体（1418人）
1	母語の教育・文化 22.8	母語の教育・文化 26.3	母語の教育・文化 27.4	母語の教育・文化 23.0
2	病気・けが 14.0	少食・好き嫌い 8.7	友達と仲良く遊ぶ 9.7	病気・けが 12.5
3	少食・好き嫌い 10.2	病気・けが 7.5	病気・けが 8.0	少食・好き嫌い 9.4
4	ほめ方・叱り方 7.0	友達と仲良く遊ぶ 7.5	言葉の遅れ 8.0	ほめ方・叱り方 8.0
5	友達と仲良く遊ぶ 6.3	ほめ方・叱り方 7.2	ほめ方・叱り方 7.1	友達と仲良く遊ぶ 6.5
6	言葉の遅れ 4.9	教育費等 6.9	教育費等 7.1	言葉の遅れ 6.3
7	アレルギー 4.6	言葉の遅れ 6.3	少食・好き嫌い 5.3	教育費等 5.5
8	予防接種・健康診断 4.6	気になる癖 4.2	定時刻の寝起き 5.3	アレルギー 4.4
9	教育費等 4.6	アレルギー 3.9	人間関係 4.4	気になる癖 3.9
10	気になる癖 4.2	その他 3.6	アレルギー 2.7	予防接種・健康診断 3.0

N=1418 (%)

3. 滞在年数と一番の気がかり (図 4-17)

滞在年数0～3年未満、3～10年未満、10年～20年未満、20年以上で最も気がかりな項目をみた。滞在年数0～3年未満の保護者に多かったのは、「病気やけが」、「友だちと遊べる」、「言葉の発達の遅れ」、である。滞在年数0～3年未満の保護者にやや少なく、3～10年未満から増加するものは「母語の教育・文化」、「少食・好き嫌い」、「少食・気になる癖」である。「子どものほめ方・叱り方」は20年以上の滞在年数の保護者に多かった。

また、一番の気がかりの父親と母親との違いをみると、「母語の教育や文化」「教育費」は父親の気がかりに多く、「ほめ方・叱り方」「アレルギー」「予防接種・健康診断」「人間関係」は母親に多かった。

4. 一番気がかりの具体的な記述内容 (表 4-9)

現在、最も気になっている具体的な記述内容は、多岐にわたっていたため、項目別に多い内容を列記した。

第1位の「母語の教育・文化を学ばせること」では、「母語(文化・宗教など)を学ぶ機会が少ない」54.8%、「母語を覚えない、話せない悩み」42.7%「バイリンガルに育てたい」14.1%などであった。

母語と文化の継承などに関しては、家庭での使用言語、配偶者の国籍などが絡み、多様で複雑なものとなっている。家庭で母語を学ばせていても、家庭外での子どもの生活が日本語中心になると、母語に関心をもたせ続けることは難しい。また、家庭で母語を学ばせることの限界を感じ、母語を学べる場を求めている。

一方で複数言語の習得、複数言語での知識の吸収の困難さとその影響を心配している。家庭で日本語を使用している場合には、子どもの日本語が上達し、日本語が不得意な保護者との意思の疎通が困難になる問題も生じている。

第2位の「病気やけが」では、「身体が弱い、入園してから病気・けがが多い」77.4%、「病気になると仕事を休まなければならない不安」13.1%、「子どもが病気もち、ストレスがある」、8.3%であった。

つけ加えると、病院など医療機関の所在地がわからない、休日・夜間診療の不安、受診時に医療者と言葉が十分通じない、仕事を休むことからくる経済的不安・医療費の心配、さらに仕事を失う恐れにもつながっていた。このことは3. 病気の子どもの世話でも記した。

第3位の「食べ物の好き嫌い」では、「偏食・栄養のバランス」55.7%、「食事量が少ない」ムラ食い43.0%、「食文化・食生活の違い」8.9%などであった。保護者が作る食事より園での食事や日本食を好む子どもに当惑している内容もあった。

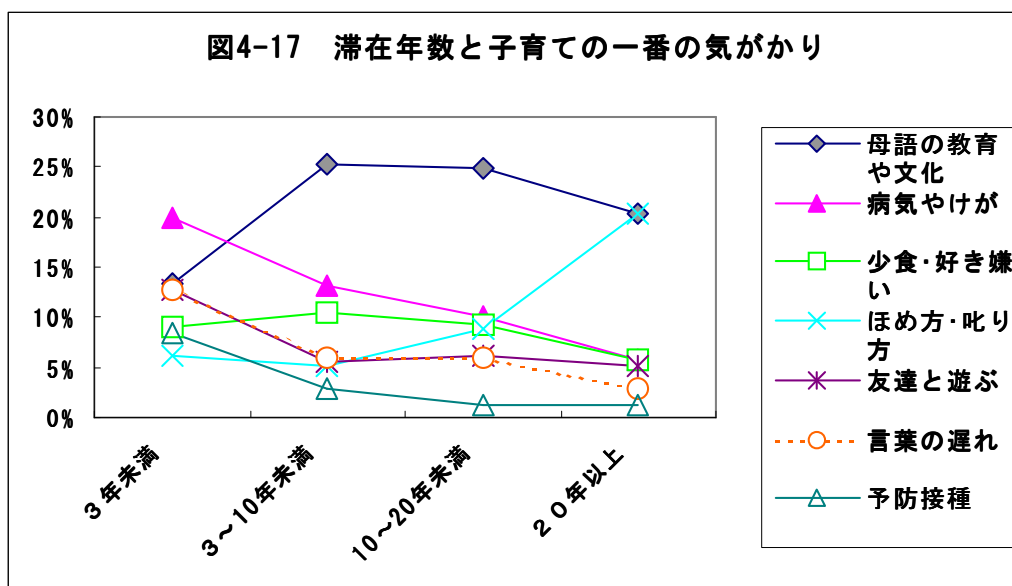
第4位「ほめ方叱り方」では、「ほめ方・しかり方のバランスを知りたい」59.5%、「感情的になって子どもを叱る」27.8%、「育児の仕方に自信がない」12.7%などであった。第5位「友だちと遊べる」では、「友だちと遊べない、遊ぶか不安」63.0%、「いじめられている、仲間はずれ」25.9%、「友だちとけんか」13.0%などであった。

これらの気がかりは、国籍を問わず子育て中の多くの保護者が悩む問題である。

「言葉の発達の遅れ」には、「複数の言語で混乱」28.6%、「言葉が遅れている」26.8%、「子どもの日本語がうまくならない」23.2%以外に、「母語を覚えない・話せない」16.1%、「友達にからかわれないか心配」8.9%「自分の日本語がうまくならない」8.9%、「母語・母文化・宗教などを学ぶ機会が少ない」7.1%など幅広い内容が書かれていた。

「予防接種」については、63.0%が予防接種そのものについて書かれていた。その内容は、国によって時期・回数など接種方法が異なること、自分の住んでいる地域のどこで・いつ・何歳のときに受ければいいのかわからない、受けそこなったがどうすればいいのか、予防接種に関する情報が日本語なのでわからないなどであった。

図4-17 滞在年数と子育ての一番の気がかり



N=1370

表4-9 子育ての一番気がかりな内容

順位	全体 (909人)	その内容 (1115)			
1	母語の教育・文化 23.0	母語等を学ぶ機会がない 54.8	母語を覚えにくい 42.7	バイリンガルに育てたい 14.1	
2	病気やけが 12.5	体が弱い・けがが多い 77.4	仕事を休まないといけない 13.1	子どもの病気からくるストレス 8.3	
3	少食・好き嫌い 9.4	偏食・栄養のバランス 55.7	少食・ムラ食い 43.0	食文化の違い 8.9	
4	ほめ方・叱り方 8.0	ほめ方・叱り方を知りたい 59.5	感情的に子どもを叱る 27.8	育児に自信がない 12.7	
5	友達と仲良く遊ぶ 6.5	友達と遊べない 63.0	いじめられている 25.9	友達とけんか 13.0	
6	言葉の発達の遅れ 6.3	複数言語での混乱 28.6	言葉の遅れ 26.8	日本語がうまくならない 23.2	
7	教育費等 5.5	教育費が高くて教育できない 51.1	経済的に困っている 33.3	保育料が高い 11.1	
8	アレルギー 4.4	子どものアレルギーについて 66.7	子どもの病気からくるストレス 20.5	体が弱い・病気がち 12.8	
9	気になる癖 3.9	子どもの癖について 89.5	友達と遊べない 7.9	自分の思うようにしたがる 5.3	
10	予防接種・健康診断 3.0	予防接種 63.0	体が弱い 11.1	子どもの病気からくるストレス 11.1	
	人間関係 3.0	日本人の親たちとの交流 24.1	職場の人間関係 20.7	他民族への理解を 10.3	

(%)

6. 一番気がかりの具体的な記述内容

母語と文化を学ぶ機会が少ない

「問題になるのは祖国の言葉と文化がわからないことです。仕事で子どもと一緒にいる時間が少なく、中国語を教える時間がないので、悩んでいます。」(保4男・母31歳・中国・8年)

「1年に2回ずつ韓国へ行く。行ったときには韓国語をよく話せるが日本に帰ると忘れてしまう。韓国語を教えてくれるところは遠いのでどうすればいいか迷っている。」(保5男・母33歳・韓国・5年)

母語を覚えようとしなない、話せない

「母の母語であるフランス語を無理なく学ばせたいのですが、その必要を感じない子どもにしばしば拒否されています。」(保5男・母43歳・フランス・24年)

「子どもたちにとっては日本語がむしろ母国語になっているようです。日常会話も日本語。中国語を教えようとしても分からない。すぐ嫌がるので困っています。」(保5男・母32歳・日本・15年)

「保育園やうちのTVは全部日本語だけ。子どもたちにとっては日本語のほうが便利になっています。母語の教育や文化を学ばせることはとても難しいです。他の国ではTVでいろいろな国の言葉が放送される。みんな何か国かの言葉を話せるのは普通になって羨ましいです。」(保5女・母35歳・中国・12年)

多言語を学ぶ心配

「子どもは園では日本語を聞いて生活し、家ではアラビア語で生活していますので、彼女の将来の言語発達について心配しています。」(保0女・母23歳・パレスチナ・1年)

「娘はフランス語・日本語・英語の3つの言語を聞いている。これが子どもの言語能力にどんな影響を与えるのだろうか。」(保1女・母35歳・フランス・3年)

「夫はエジプト出身。私はドイツ人です。私たちのコミュニケーションは英語です。子どもは園で日本語を話しています。4ヶ国語を使いこなせるか心配です。」(保0女・母31歳・ドイツ・7年)

家庭で言葉が通じない

「子どもは日本語中心の生活。父は日本語ができないので子どもとのコミュニケーションがうまく取れなくなるのではと心配している。父はフランス語で話し掛けているものの、保育園に通っていることもあり子供が理解するのは日本語のみ。」(保1男・母33歳・日本・33年)

「母国語がスペイン語なので子どもたちとのコミュニケーションがうまくできているか、通じているか心配です。子どもたちにとっては日本語の方がよくわかるからです。」(保2男・母38歳・ペルー・10年)

祖父母との交流ができない

「家では日本語しか使えない環境になっているので、私の母国語を子どもに教えることができない。できれば子どもが私の両親とコミュニケーションができるようになってほしい。」(保1男・母25歳・中国・6年)

日本語の心配

「言葉のことが心配です。子どもは親と言葉が通じない。市役所で日本語を勉強したことがあるけれど、練習のチャンスは少ないし、家の仕事もあって日本語がうまくなりません。」(年中男・母41歳・タイ・7年)

「私は日本語が下手で簡単な会話しかできない。私と一緒にいる時間が長いので子どもも簡単な日本語しかできません。」(保4男・母30歳・日本・7年)

子どもが病気になったときの心配

「子どもが病気になったときが一番大変です。特に日本語がわからないので、病院に行くときにはいつも友達に頼んで訳してもらっています。それに、子どもの世話をする経験がほとんどなく困っています。」(保0男・母31歳・中国・1年)

「病院にかかるむずかしさ。とりわけ緊急の場合のむずかしさ。特に夜間は救急車で運び込まれない限りは、受け入れてもらえない。」(2女・母35歳・フィリピン・0年)

子どもの病気と保護者の仕事のからみ

「1歳になったばかりの男の子です。また小さいため病気になりがち。1週間登園できないのはしばしばです。今の状況だと会社から長い休み取れないので困っています。少し体調を崩してもみてくれると助かるのですが。」(保0男・母28歳・日本・28年)

食事に関する気がかり

「娘の偏食に悩んでいます。好きなものしか食べません。保育所の給食は好きですが、私がほとんど作れません。困っています。」(保2女・母30歳・中国・3年)

「園では日本食を食べ、家庭ではどうしても母国の食事が多いので子どもが戸惑っているのではないかと。」(保2男・母30歳・韓国・8年)

気になる癖

「爪かみがひどくて、もう2年間爪を切ったことがありません。爪かみをやめさせる方法をおしえてください。」(保4女・母40歳・中国・13年)

しつけのこと

「仕事がどうしても忙しいので、自分の中でも1日が目まぐるしくどうしても子どもたちに強くあたってしまう。叱り方が強いかなと思ってしまいます。」(保5女・母38歳・中国・38年)

予防接種の心配

「日本の予防接種のシステムはブラジルと違うので心配。いつ、どこに行けばいいのかわからない。日本語が読めない。」(保4女・母29歳・日本・3年)

子どもの友達関係

「どうしたら他の子どもをけがさせたり、差別をする子たちに傷つけられないようにしながら遊ぶか。」(保5男・母38歳・ブラジル・8年)

「子どもの遊び友達から、他の子どもがいつも自分の子どもを困らせているということを知っている。」(保5女・母35歳・フィリピン・12年)

人間関係の問題

「夫と言葉が通じないので、一切の相談・話し合いができないこと。夫自身子育てに協力的でもないし、将来への不安が大きい。」(保5女・母38歳)

「まわりとの人間関係がうまくいかなかったりすると、そのストレスを子どもにぶつけてしまう。」(保5女・母29歳・5年)

「いつでも義母から批判され、しかられる。」(保5男・母35歳・5年)

「子どもの友達の親は、子どもがダブルなのでうちの子どもを避ける傾向があります。」(保5男・母35歳・10年)

経済的なこと

「にほんはなんでもたかいから、こどもがおおきくなったら学費がかかるかもしれないのでとてもしんぱいです。」(保2女・母32歳・7年)

「今はそんなにきつくないが、収入が低いので後々教育に回せるお金が限られてくると思うので心配。食べていけるかどうかも心配。」(保3女・母36歳・3年)

()は、保育園・幼稚園の別、学年、性別・回答者の続柄、年齢・国籍・滞在年数を表す。

Column : 子育ての一番気がかりなことへの対応

表 4-10 「一番気がかりなこと」の具体的内容の上位 20

順位	気がかりな内容	%	順位	気がかりな内容	%
1	母語(文化)を学ぶ機会が少ない	13.5	11	寝るのが遅い・起きるのが遅い	3.3
2	母語を覚えない・話せない	11.1	12	教育費が高く過ぎる	3.2
3	身体が弱い・けがが多い	10.3	13	子どもが病気がちでストレス	3.1
4	友達と遊べないのが心配	6.2	14	苛められている・仲間はずれ	3.1
5	ほめ方・叱り方を知りたい	5.7	15	子どもの日本語の上達	3.0
6	偏食・栄養のバランス	5.5	16	感情的になって子どもをしかる	2.7
7	バイリンガルに育てたい	5.4	17	自分の日本語がうまくならない	2.7
8	食事量・少食・ムラ食い	4.8	18	予防接種	2.5
9	指しゃぶり・爪かみなどの癖	4.1	19	日本の教育への疑問	2.4
10	喘息・アトピー・アレルギー	3.6	20	言葉が遅れている	2.3

子育ての気がかりと「一番の気がかりなこと」の具体的内容をみると、外国籍の保護者あるいは、母語を日本語としない保護者の実情がうかがえた。表 4-10 は、一番の気がかりとして実際に記述された内容をコーディングした出現頻度の上位 20 と、その中で%を記したものである。

大きく分類すると、①母語（文化・宗教など）に関すること、②子どもの病気やけがなど身体に関する事③食事・友達と遊ぶ・ほめ方としかり方など子育て全般に関する事である。その上に日本語がよくわからないことが加わっている。

このように、母語・文化・宗教を大切にしている、あるいは母語を学ぶ機会を求めている保護者が多い実情を理解することがまず必要であろう。

滞在年数 10 年未満の保護者に対しては、病院など医療機関・予防接種などについての情報提供、医療の場での対応、子育てについての相談などが、多言語で受けられる工夫が必要と思われる。また、通訳サービスを充実させること、保育園・幼稚園・医療機関・自治体・ボランティア団体などが既に作成している多言語の対話表や対話カードなどを有効に利用することも一助となるであろう。

そして、互いに文化背景を理解しながらの一人ひとりがつきあいを広げていくことが大切と思われる。次の保護者の意見を参考にしたい。

「子どもの言語や文化をよく理解できていない場合には、子どもを育てたり、自分を理解させたり信頼することは不可能です。子どもたちが教員を親のように理解し信頼させたりすることは不可能です。どこに住んでいようとも子どもたちの文化が第一で、その他のものは第二になるようにしなければならない。しかし、日本では子どもたちは、日本の文化と日本語を最初に学ばなければならないとされている。私の考えは間違っているのでしょうか。」(保 3 男・父 32 歳・アメリカ・7 年)